西東京三田会

－News Letter 29－　（2023.7.1）

西東京三田会ホームページ　http://nishitokyo-mitakai.net/

新会長　巻頭インタビュー

本年 5 月 20 日に開催された西東京三田会年次総会に於いて、新会長として原護さん（S45 法）が選出されました。3 年超に渡る Covid-19 禍を経て、漸く当会の活動はこれからギアアップして、積極的に動き出すこととなります。そうしたタイミングで新会長に就任された原護さんに、ニュースレター編集委員の取材を通して、会員の皆様に新会長のお人柄、そして会務に関する抱負等を語って頂くことに致します。

朋近きにあり　いつも楽しからずや

編集委員
会長に就任され、ひと月程経ちました。先ず、会長になられた率直なお気持ちを聞かせて頂けますでしょうか。

原会長
会長になった、ならないと関係なく、長らく続く閉塞感に辟易していたコロナ禍が漸く終息に向かい、私自身三田会の仲間と「さぁ、思いっきり楽しく活動しよう」という気持ちでいます。生活全般に於いて、様々な自粛を強いられていた訳であり、私だけではなく多くの会員の皆さんが同じ思いではないでしょうか。そうした活動を三田会を通して行えるようにしていきたいというわくわく感で一杯です。

編集委員
確かに会員の皆さんも同様なお気持ちを持たれているでしょうね。
少々漠然とした質問になりますが、今後、西東京三田会をどのような会にしていきたいとお考えですか。

原会長
当会は、義塾で学んだ同窓の絆で結ばれた塾員の集まりです。そして、強制されたものでは

なく、各自が進んで入会された訳ですので、会員の皆さんは各人各様の「期待」を持たれていると思います。そうした期待に少しでも添えるような会であるべきだと思います。当会には様々なサークルが存在しております。そうした活動を通し、会員相互の親睦と相互扶助を醸成出来る場にしたいと思います。参加する方々が、心から楽しくなるような環境を持った会にしたいですね。併せて、私達が住まう西東京という街への地域貢献も重要な会務の一つだと思っております。西東京三田会会員であることの連帯感と結束を強化することが、親睦と地域貢献に繋がるものだと考えています。

編集委員
企業人としてもトップを歩まれたご経験をお持ちですが、企業経営と会の運営には共通点のようなものがあるとお考えでしょうか。

原会長
企業は通常、資本を提供して頂いた出資者、この場合は株主となりますが、その方々に経済的利益を還元する責務を負っています。そしてこれを効率よく実現するための組織が求められます。一方、三田会は非営利組織であり、収益を求めることは目的ではありません。しかしながら、どちらの場合も組織の基本的な部分はそれほど異なるものとは考えていません。組織を統治するリーダーシップには色々なスタイルがありますが、多くの名経営者と言われる方に共通していることは、社員や構成員を尊重している姿です。こうした学びを今後も活かせていけたらと思っています。

編集委員
企業人時代のお話に繋がるかもしれませんが、失礼な質問になりますが、原会長のイメージは無類のお酒好きで、且つゴルフが何よりお好きだというものです。
そのあたりの印象は間違っておりませんか？

原会長
決して間違ってないと思います。然し、お酒もゴルフも相手との交流のツールと考えています。お酒を介してお話がスムーズに進むこともあり、お互い本音を言えることに繋がると思います。勿論、世の中にはお酒を召し上がらない方もいらっしゃる訳で、呑める、呑めないということで分け隔てをするものでは決してありません。
ゴルフに関しては、健康管理の一環と考えています。ゴルフに限らず、歩くことは健康管理上重要だと思っており、時間があれば一人で西東京の各所を歩いています。

編集委員
確かに、ウォーキングされている原会長にお目に掛かったことがありましたね。
ところで、会長として何か新しい企画や計画はお持ちでしょうか。具体的なものでなくても結構ですので、お聞かせ頂ければと思います。

原会長
ここ数年、地域活動に関しては目立った活動がなされておりません。地域社会のみならず母校

等も対象にして、私達に何が出来るかを検討し、実現出来ることを模索していきたいと思っています。当会の会員の中には優れた学識、見識をお持ちの方も多いので、現時点では幾つかの市民講座の企画を検討しております。また、ゲストをお招きして、「ワインを学び、ワインを飲む会」なども面白いと思います。そして「花火大会見学会」や「美術鑑賞会」、時には「温泉旅行会」なども如何でしょうか。会員の皆様に悦んで頂けるような楽しく、有益なイベントも企画したいと考えています。是非期待して頂ければと思います。

編集委員
地域三田会は、どうしても年長者中心の活動になりがちですが、若手会員が参加し易い仕組み等を何かお考えでしたらお聞かせください。

原会長
確かに当会の現状は、日本の人口構成と同じように高齢化が進んでおります。今後の当会の更なる発展のためには、若手会員の増加を実現させることは喫緊の課題だと感じています。それと同時に女性会員の増加も重要な課題だと思っています。こうした安定した会員構成の実現を目指すには、この地域内での当会の更なる知名度の向上、市民の方々、西東京市に所縁のある会社・団体等に勤務されている方々にも、当会の理解と親近感を深めて頂くよう活動していきたいと思っています。

重要なことは、私達年長者が若者と同じ目線で情報交換を行っていくことではないでしょうか。世の中が速いスピードで進化しているので、沢山の方々から情報提供をして頂けるようにしたいと思っています。一つの方法としては、若手会員の方や女性会員の方に、順番で役員会にご出席頂き歓談するような機会も作ったらどうでしょう。

論語の中に、「朋あり、遠方より来る、亦楽しからずや。」という一節があります。この「朋」とは、同じ価値をもつ者同士を表しており、孔子の時代には、同門で学んだ者同士の関係にも使っていたと言われます。慶應義塾は、学問を勧め、社会に有用で、同じ価値観や人生観を持つ朋同志を大勢輩出してきました。西東京三田会では、そうした朋が、歩いてもさほど遠くない地域に沢山居ることになります。即ち、「朋近きにあり、いつも楽しからずや」を実現できる場と言えるのではないでしょうか。楽しさの「素」は沢山在ります。其々個人によって異なりますが、朋の集まりである西東京三田会会員であればこそ、必ずや楽しみをいろいろな方法で享受できるようにしたいと考えております。

皆様とご一緒に、なによりも楽しい西東京三田会を目指していきたいと願っております。是非とも、皆様方のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

編集委員
原会長、本日はお時間を頂戴し有難うございました。会長の熱い思いを伺うことが出来、とても嬉しく感じました。西東京三田会の発展のため、どうか存分にお力を発揮して下さい。
会長のお考えが誌面を通して会員の皆様に伝わるものと存じます。

令和５年　定時総会開催

去る５月 20 日（土曜日）、当会令和５年定時総会がコール田無イベントホールＡにて開催されました。
当日は会員 32 名が参加され、前年度の財政報告、会長を含めた新役員の選任、活動計画、予算案の承認等が行われました。ここで本総会の書記を務めて下さった佐藤副会長が纏めて下さった総会議事録を誌上掲載いたします。
議場での緊張感が伝わるのではないでしょうか。

西東京三田会　令和５年度総会議事録
日　時：令和５年５月 20 日（土）
　　午後３時 30 分～４時 25 分
　　(閉会宣言４時 10 分)
場　所：コール田無　２階イベントルームＡ
出席者：32 名（期末総会員数 117 名中・27. 4%）

定刻になり、司会の大内俊君（S57 経院）が令和５年度総会の開会宣言を行い、議長に樋口明朗君（S43 経）、書記に佐藤貢一君（S48 経）を指名した。
全員起立により塾歌を斉唱した後、議長が挨拶を行った。その中で、今次の総会では、令和４年度の活動状況と予算執行の総括、並びに、本年度の活動計画案、予算案等について審議すること、また、総会後には久方ぶりに対面形式での懇親会を行うなど、今次総会をコロナ明け新時代のスタートと位置づけ、活発な活動の展開を期待する旨の話があった。

その後、本総会資料（添付）記載の以下の事項について、順次、審議を行った。
第１号議案「令和４年度事業報告」について高橋信一幹事長（S47 工・H31 文）から、第２号議案「令和４年度収支決算、同監査報告」について横田均会計（H01 政）から報告、説明があり、格段の質疑なく議案は決議された。
続いて、第３号議案「役員改選の件」について「役員候補（案）」を高橋幹事長が説明し、格段の質疑なく、賛同、了解を得て議案は決議された。

最後に、第 4 号議案「令和 5 年度活動計画」及び第 5 号議案「令和 5 年度収支予算（案)」について、第 3 号議案の議決を経て新会長に就任した原護君（S45 法）から説明があり、格段の質疑なく決議された。

併せて、横田会計から、今回、会員名簿の配布を見送ったことについての補足説明があった。

全議案の決議を得たことについて、議長が改めて参加者に拍手による賛同の意を求め、多数の拍手を以て議事の終了を宣言した。

その後、司会が第一部総会の終了宣言を行い閉会した後、新役員に就任した高橋幸三君（S49 工）と丑山佐枝子君（H18 政院）の紹介と挨拶、更に、会長から顧問に就任した樋口君、幹事長・副会長から理事に就任した高橋信一君、今次をもって退会した松本洋平君（H08 経）から挨拶があった。

以上

文責　佐藤貢一

総会懇親会が開催されました

5 月 20 日（土曜日）、令和 5 年の定時総会の終了後、会場の都合で若干間が空いてしまい、出席者の皆様には御迷惑をお掛けすることになりましたが、午後 6 時より懇親会が開催されました。
昨年は総会のみの開催であり、総会後の懇親会はコロナ禍以前の令和元年以来のものとなりました。出席者は来賓を含め 36 名。どなたの顔も笑顔全開でした。ここで、懇親会の誌上振り返りをさせて頂きます。

午後 6 時、司会の佐藤・大内両副会長の挨拶を以て、まる 4 年振りに総会懇親会が開催されました。

はじめに、総会で新会長に就任された原護会長から開宴のご挨拶がなされました。原会長のユーモア溢れる挨拶の後、来賓の紹介が行われました。来賓の方々は、塾員センターからいらして頂いた中里課長、西東京稲門会の緒方会長、原田副会長、小平三田会の剣持会長、石田幹事長の 5 名でした。

その後出席者の皆さんのグラスにビール等が注がれ、当会渡辺顧問（元会長）に依る乾杯のご発声があり、和やかな雰囲気の中懇親会が始まりました。

本懇親会に関しても、コロナの感染者が減少傾向にあるものの、波状的に感染者が増加する中、本年初から役員会にて開催の是否が討議されてきました。従前のように総会を 5 月に開催する場合、連休明けで感染者が増加するのではないか。仮に感染者が減少しても、公的施設で飲食を伴う会合が可能なのであろうか。そして、感染症措置としてコロナが 5 類に移行したとして、施設の利用が全面的にコロナ以前に復すのであろうか。こうした様々な問題に対する議論がなされる中、会場の予約は 5 類移行の 2 ヵ月前であり、加えて公的機関の会場が抽選で外れることも想定の中で、開催の決断は見切り発車を余儀なくされるものでした。そうした難しい局面の中で開催出来た懇親会ですので、関係者の悦びはひとしおでした。

会の途中には、今後予定されるイベントの紹介が織り込まれ、また若手会員が指名により登壇し自己紹介を披露する等々、出席者皆さん大いに盛り上がりました。その盛り上がりがそのまま宮本副会長に依るエールへと繋がり、稲門会の皆さんを

讃え「紺碧の空」を斉唱し、続いて三田会として「慶應讃歌」、「丘の上」、そして「若き血」の三連弾で更に盛り上がった次第です。通常は両校 1 曲の斉唱ですが、ここ数年、皆で歌えなかった思いが 3 曲に込められたのではないでしょうか。斉唱後、「早稲田にも沢山歌はあります‥」と言われた稲門会役員の方のセリフが印象的でした。

その後、曽根原顧問に依る中締め挨拶、全出席者に依る集合写真の撮影を以て、愉しく集った懇親会は午後 7 時 40 分に閉宴となりました。

来年は、若手会員と女性会員、そして同伴ご家族もより増え、一層の盛会となりますことを願っております。また皆様の多くの笑顔で会場が一杯になりますことを愉しみにしております。

大内　俊（S57 経院）

懇親会に参加しました！！

去る5月20日（土）、西東京三田会の総会および懇親会に参加させていただきました。懇親会の形式の行事に参加するのはコロナ前の2020年の新年会以来実に約3年半ぶりのことでした。久々にそのような会に参加できることを嬉しく思うとともに、コロナ禍になってからそれだけの月日が経過したということを改めて実感しました。

懇親会では様々な塾員の先輩方とお話をすることができ有意義な時間を過ごすことができました。また皆さんの前でお話しする機会もいただき、多少なりとも私のことを知っていただけたのではないでしょうか。

現在勤務している会社に塾員が私を含めて２人しかいないこともあり、日頃なかなか塾員の方々と関わりを持つのが難しい状況です。そのため、今回の総会・懇親会は塾員の先輩方と交流の場を持つことができる数少ない機会です。今後も可能な限り参加させていただきたいです。次回は同年代、年代の近い塾員の方々ともお話しできたらと思っています。

小脇　光（H27 経）

新任理事を紹介します

過日開催されました総会にて新しい理事の方が 2 名就任いたしましたので、ご紹介いたします。

高橋幸三 理事 （S49 工）

高橋です。昭和 26 年に青森市の生まれですが、父が転勤族で 3 年ごとの異動を経験しています。昭和 49 年に工学部機械科を卒業ののち建設業に就職しました。主に施工管理畑の「現場監督さん」を担当し、61 才で防災メーカーに再就職で一昨年の 70 才まで働いていました。企業という縦社会を離れて、地元に密着した横の繋がりを求めて西東京三田会に入会したのが 5 年前です。趣味はゴルフとお酒が大好きです。その他は公民館の会員募集の案内を見て、水彩画・スポーツウェルネス吹矢・歴史研究会（ヨーロッパ史）のサークルに参加しています。初めての役員を仰せつかりましたので、楽しく活発な西東京三田会に微力ながら協力できればと思います。

丑山佐枝子 理事 （H18 政メ院）

この度新理事となりました、平成 18 年政策メディア研究科（院）」卒の丑山佐枝子です。

西東京三田会の存在を知ったのは、創立 30 周年記念イベントのお知らせを頂いた時でした。「面白そう！」と思い参加してみたら、お会いした先輩方は素敵な方ばかり。とても居心地が良く、この会でもっと交流したいと思い入会を決めました。

今では、いつも新しい発見のある刺激的な学びと遊びの場となっています。

卒業後、舞台でのクラウン（Clown）や演劇のプロデュース活動を仕事としてきました。人が集い、それぞれの知恵や経験を活かしながら、「心がときめく」場を創造することを大切に励んでいるところです。

これから西東京三田会の魅力を発信できるよう、貢献できればと思っております。

どうぞよろしくお願いいたします。

サークル活動を紹介します

2023 年度になり西東京三田会のサークル活動も少しずつ活動を再開してきました。そこで 2023 年 4 月以降に開催されたサークル活動をご紹介いたします。

・お花見会（2023 年 4 月 9 日）
　参加会員から寄稿いただいていますのでご覧ください。
・竹の子掘りを楽しむ会（2023 年 4 月 23 日）
・麻雀の会（2023 年 5 月 21 日）
・グルメ会（2023 年 5 月 26 日）
　参加会員から寄稿いただいていますのでご覧ください。
・神宮野球応援会（2023 年 5 月 27 日）
・カラオケ会（2023 年 5 月 30 日）
・ゴルフ会（2023 年 5 月 31 日）

竹の子掘りを楽しむ会

爽やかな日和の令和 5 年 4 月 23 日の午後、東久留米三田会の野崎陽一さんの竹林で竹の子掘りを実施しました。お子さんも交えた 6 組が集合して、野崎さんから竹の子掘りの極意を伝授されてから竹林に入りました。今年の東京は昨年よりもさらに雨が少なかったので、生育がいまいちで、手頃なサイズの竹の子がほとんどありませんでした。それでも大小数本を手に入れることが出来ました。持ち帰って直ちに茹で、色々な料理に使ってみました。採れ立てで新鮮な竹の子の触感を楽しみました。毎年緑豊かな野崎さんのお宅を堪能出来ることに感謝しています。

高橋信一（S47 工）

孫娘と爺々のたけのこ掘り顛末!?

森　茂樹（S52　法）

今年５歳になった孫娘を一人車の後部座席に乗せ、東久留米の野崎邸に向かいました。

今回は３回目のたけのこ掘りですが、親の息子夫婦は急用で参加できず私と孫娘の二人で参加しました。孫娘はこの日を前から楽しみにしており息子夫婦も参加できないとは言えず、孫娘と爺々の二人だけの参加でした。

野崎邸に着き車を止めるや否やこちらの制止も聞かず、自分でシートベルトを外し、ドアを開け、勝手知った場所を一人で歩いて行く孫娘を見てこちらは冷や汗ものでしたが、これは今でも息子夫婦には内緒です。

今年の参加者は比較的少ないなという印象でしたが、更に野崎さんからは「今日までは雨が少なく、筍が出ていないので中々取れないと思いますよ」と説明があり、少しがっかりしたものでした。

そしていざ竹林に向かおうとすると、孫娘はこれも勝手知った道なのでしょうか先頭に立って一人で行ってしまい、私が慌てて後を追いかける始末でした（汗）

しかし着いてみると確かに野崎さんの説明通り、昨年筍が生えていた場所には全くなく、今日は手ぶらで帰る羽目になるかと思っていましたが、奥の畑との境界近くで孫娘の「じいじい」と大きな声がしたので行って見ると筍が 20 ㎝程芽を出しており、私がスコップで掘り、孫娘が引っ張り出す（形だけですが）ことで一本が取れたのです。これには孫娘も意気揚々と取れた筍を持ち、あたかも自分が掘ったように持ち上げていました。でもその周辺にはまだ芽を出している筍があり、結局孫娘と私で５本の筍を取ったのです。

（タケノコを掘っているつもりです）

帰りの車の中で「みんなの中でたけのこを取ったのは一番多かったね。来年も来ようね。次はブルーベリーだね。」との孫娘の嬉しそうな声を聞きながら頷き運転をする爺々でした（疲れた！次は必ず息子夫婦も一緒に来てもらおうと心の中で呟いたのでした）。

麻雀の会を開催しました

令和５年度最初の麻雀の会は総会の翌日５月 21 日(日)に行われました。

令和５年(2023 年)は、２月 19 日、５月 21 日、８月 20 日、10 月 22 日、12 月 17 日の５回が計画されていました。
しかし、２月 19 日はコロナ禍の残像があり中止。
この５月 21 日は計画では２回目なるも実現は最初でした。
ただ、まだコロナが心配か、参加者は伊勢尚一さん、牛島康朗さん、直井徹也さん、原護さん、原洋一さん、樋口明朗さん、堀進さん、横田正満さん、吉田正輝さんの９名でした。
１時間半のゲーム３回で、
優勝が原洋一さん、２位が牛島康朗さん、３位横田正満さんでした。

神宮野球応援会

2023 年（令和 5 年）春季、慶早 1 回戦、無残な敗戦でした

神宮野球応援会は、令和 4 年秋にも実施しましたが、全員マスク姿、声だし応援無しの異様さでした。

さて、令和 5 年春、４年生は入学から 3 年間コロナ禍にどっぷり浸かっていて、やっとトンネルの出口です。
5 月 27 日に西東京三田会の神宮野球応援会は企画されました。
優勝は明治で既に決まっています。
この慶早 1 回戦、1 回表に幸先よく 2 点を先行したのに、2・3 回と残塁のヤマ、策がみられません。
ヒット数が 12：7 と大きく上回っていたのに点数結果は 3：5 という無残な敗戦となりました。
翌日の新聞（朝日）には、”早慶戦戻った「地鳴り」”の見出しに我らがいた外野応援席の写真があり、記事には、”応援団と一般客が一緒に応援歌を歌って応援する「いつもの光景」が 4 年ぶりに復活した”とありました。
真夏とも思える炎天下の下、コロナを吹っ飛ばして盛り上がりました。　　樋口明朗（S43 経）

カラオケ会からのご案内

カラオケ会につきまして、ご案内いたします。
コロナ禍のため、長らく休止しておりましたが、5 月 30 日の 14 時から田無駅前のカラオケボックス「まねきねこ」で復活第 1 回目を開催しました。
今回は実験的に急いでスタートさせたため周知期間が短かかったこともあり参加者は 3 名でしたが、2 時間の間にそれぞれが 8 曲ずつ、計 24 曲を歌いまくりました。
　半分くらいは青春時代の懐かしい歌でしたが、よくよく考えてみれば 50 年以上前の曲で良くぞ長生きしたなと実感できます。

カラオケは惚け防止に効果があると実感できます。
私の場合で恐縮ですが、新曲を歌おうと思ったとき、若い頃ならば数回聴けばマスターできた筈が、70 を超えた今、曲によっては何十回も聴かなければ覚えられません。
ただ物を積極的に覚えようなどという事が滅多にない隠居生活者にとっては、一生懸命脳が活動し、回線がつながって徐々に記憶されていくことが実感でき、達成感を獲得できます。

カラオケ好きな方はもちろん、初めての方も大歓迎します。
特に、興味はあるけど人前で歌ったことがないので一歩を踏み出せない方はまずはカラオケボックスでの「ひとりカラオケ」をお勧めします。
ご依頼があればカラオケボックスの利用の仕方などご案内します。

次回は一応 3 ヶ月後の 8 月下旬か 9 月初めの平日の午後を予定していますが、
土日、平日の夜などのご要望が多ければ別途計画します。
ご要望などがあれば世話役皆川までお寄せください。
連絡は下記メールアドレスへ。
　　世話役 皆川 mi132105na@ezweb.ne.jp

皆川雅紀（S49 政）

西東京稲門会との合同ゴルフ会を終えて

（スタート前、参加者全員で記念写真を撮りました）

令和５年５月 31 日（水）西東京三田会ゴルフ会が主幹事になり、飯能グリーンカントリークラブで第２回慶早校友合同ゴルフ会を開催しました。

当初 34 名（三田会 14 名、稲門会 20 名）の参加予定でしたが、種々の事情で開催日の参加者は 30 名（三田会 12 名、稲門会 18 名）となりました。

１週間ほど前までは台風が接近してくることや前線が南下してくるなどの予報があり、開催の前々日までは三田会幹事２名、稲門会幹事２名が毎日のようにメールを使っての鳩首打ち合わせで「開催できる、開催できない」をやり取りしながら 29 日の朝に最終決定をすることとなりました。しかし天気は私たちに味方してくれたのでしょうか 31 日と翌日６月１日はいいとの予報が出て開催することとなりました。

当日午前中は薄曇りだったものが、午後からは太陽が顔を出し、少し蒸し暑いくらいの天気でした。

９時 17 分アウトイン同時スタートで、４組ずつ計８組、30 人でスタートしたゴルフ会は天気に

恵まれる中、15 時半ごろまでには全組無事ホールアウト、取り敢えず幹事一同ホットした瞬間でした。

16 時頃からはパーティも始まり、「若き血」「紺碧の空」が流れる中、成績発表、当会から稲月名誉幹事、原会長の挨拶、上位入賞者挨拶、初参加者挨拶など終始和気あいあいと進みました。

優勝は稲門会の根岸さん、ベストグロスは同じく稲門会の濱野さんでした。デフェンディングチャンピオンの吉田禎子さんは惜しくも 5 位でした。その中でも特筆すべきは、86 歳の滝澤さん（稲門会）でニアピンとドラコンを獲得する活躍で、幹事一同頭の下がる思いでした。

このような形で終わった合同ゴルフ会でしたが、次回 3 回目は高坂カントリークラブ岩殿コースで今年 11 月 28 日（火）に開催いたします。このニュースレターを読んでいただいた方で「ぜひ参加したい」と思われる方は今から予定を調整していただき奮ってご参加いただきたいと思います。参加者のスコアも 86 から 147 と幅広く参加することに意義があると考えています。また参加賞も含めて参加者全員に賞品をお渡しいたします。ご案内は 9 月頃にお送りする予定です。

よろしくお願いします。（西東京三田会ゴルフ会幹事）

小平三田会 作品展が開催されました

6 月 14 日から 17 日の日程で小平三田会主催の作品展が開催され、14 名、40 点以上の作品が出品されました。
当会からは天辻さん、高橋信一さん、吉川さんの 3 名が出品しました。
杉並三田会や小平稲門会などからも作品が集まりました。写真より絵画・彫刻の作品が多く出品されていました、
通りがかりに見るというよりも、広報を知って来られる方が多いようでした。
当会からの出品は以下の通りです。

・天辻さん：アクリル画 2 点
「額あじさい」「冬瓜」
・高橋信一さん：書籍 6 冊
「古写真研究こぼれ話」
・吉川さん：木彫のオブジェ 4 点「生きること」
水彩画「新世界路地：チェコ」
「世界遺産の街：チェコ」

お花見会に参加して

会員寄稿

牛島康朗（S40 政）

ここ数年、コロナ禍のため中止になっていた観桜会が 4 月 9 日小金井公園で開催されました。私個人は、前週の 4 月 2 日午前中に目黒川お花見クルーズに参加し種々の桜を楽しみ、また午後には、新宿御苑の桜を見て廻りました。そのため 4 月 9 日には桜は散っているのではないかと思いつつ参加したのですが、なんと小金井公園は日本の桜名所、100 選にも選ばれている桜の名所で、いろいろな桜、たとえば、ヤマザクラ、サトザクラ、オオシマザクラ、ソメイヨシノ等 50 種類、1700 本もあることが表示されており、早咲きの桜、遅咲きの桜といろいろあるため、当日も満開の状態でした。

西東京三田会お花見会の場所は、江戸東京たてもの園の西側で、大漁桜（大島桜と寒桜の交配種 ）と陽光（寒緋桜と天城玄野の交配種）の桜の中間にマットが敷かれました。当日の参加者は、小平三田会を含め 19 名でした。マットの上では、車座になって座り、弁当と飲物が配られ、またいろいろな種類の酒も寄付され、大いに盛り上がりました。

世話役の方々には、大変お世話になりありがとうございました。

「江戸情緒を味わいながらの散歩と食事会」に参加して

会員寄稿

橋本諭（S50 経）

皆さん今日は。過日グルメの会主催の「江戸情緒を味わいながらの散歩と食事会」に参加し、とても楽しい一日を過ごしてきましたのでご報告致します。

私は長年幽霊会員をしておりましたが、昨年 12 月の年忘れ懇親会を皮切りにし、ボチボチ会の行事に参加しようかと思っていましたところ、標記のご案内をメールにて頂きまして、参加の申し込みを致しました。

ご案内のタイトルの響きがとても良く、かつ散歩で巡る王子・巣鴨のスポットが期待を膨らませる数々の名所でしたので先ずは同行させて頂こうと思った次第です。

事前に小笠原様から見所のワンポイントガイド付行程表を頂いておりましたが、当日は歴史に造詣の深い皆川様（当日のガイドも引き受けて頂いた）から手作りの資料を頂戴して、これを携行しての充実した散歩となりました。移動途上では同じ東京に居ても恐らく滅多に乗る機会のないと思われる都電にも乗車しタイムスリップしました。紙面が限られていますので行程の詳細は残念ながら割愛しますが、訪ねるところそれぞれに深い歴史を感じ、江戸情緒を満喫しました。最後は巣鴨のとげぬき地蔵を後にして、グルメ会のメインイベントである「魚桝」での冷えたビールの待つ食事会へ突入しました。

対コロナの制約がなくなり皆が集う懇親グルメ会の開催は４年ぶりとの事で、皆様大いに話に花が咲き、予定を１時間オーバーしてのお開きとなりました。私は初参加のグルメ会でしたが、幹事の方々、ガイドをして頂いた皆川様、新参者を気持ち良く受け入れて頂いた会の皆さんに紙面を借りてお礼を申し上げ会のご報告と致します。
有難う御座いました。

小平三田会　総会・お楽しみ会・懇親会に参加して

6 月 10 日（土）、小平三田会の総会・お楽しみ会・懇親会がルネこだいら地階レセプションホールにて開催され、当会から大内副会長、横田理事が参加致しました。

「お楽しみ会」は吉川前会長の司会により進められ、日本では非常に珍しい「手回しオルガン」（別名ストリート・オルガン）、グランドハープ、そしてソプラノのアンサンブルが行われました。

吉川前会長に依ると、数年前から企画を立てながら、コロナ禍等で実現出来ず、漸く発表に漕ぎつけた旨説明があり、とても素晴らしい演奏を堪能致しました。

その後の懇親会は着席形式で行われ、会員の皆さん、そして私達来賓共々、和気藹々の雰囲気の中非常に愉しい時間を過ごすことが出来ました。

小平三田会が発足して 7 年の歳月が流れましたが、当会にとり、弟がしっかり成長している姿を目にすることが出来、とても嬉しく思いました。

（大内俊　S57 経院）

西東京稲門会第 23 回定時総会が開催される

6 月 25 日(日)には、早大東伏見キャンパス STEP22 において西東京稲門会第 23 回定時総会が開催され、当会から原会長、大内・佐藤副会長、横田理事が参加しました。

第 1 部講演会は、発声学の専門家である野口千代子さんが「楽しく学ぶ発声と呼吸法」のテーマで、発声練習で免疫力をあげ、認知症予防や活舌改善に役立つノウハウをユーモアたっぷりの話術で、あたかも漫談風に、実演もまじえながらお話しくださいました。

エンディングでは「北国の春」の大合唱。あっという間の 60 分でした。

特筆すべきは、わが三田会からの参加者 4 名のうち 3 名が講師の指名を受け、聴衆の前での実演に協力をしたことでしょうか。お疲れ様でした。

第 2 部総会も滞りなく終了し、ラウンジでの懇親会の始まりです。当会の約 2 倍(236 名)の会員を擁する西東京稲門会らしく、70 名の会員、在学生、来賓等が一堂に会し、約 100 名の祝宴が繰り広げられました。談論風発、あちこちで懇親の輪が広がり、最後に、応援部リーダー、チアガールのリードで、応援歌「紺碧の空」「若き血」とエール交換、校歌「都の西北」を斉唱し 17 時過ぎに散会となりました。

西東京稲門会の皆様にはきめ細かなご配慮を賜り、厚く御礼申し上げます。

（佐藤貢一　S 48 経）

グルメ会企画「入間川花火見学会」(7/29)

真夏の夜、入間川の花火を見に行きませんか？

◎2023 年 7 月 29 日（土）　午後 4 時集合
◎集合場所：西武線所沢駅　改札口

◎参加可能人数（8 名程度、MAX10 名）
　食事会のお店の予約できる人数から
◎食事会　所沢駅 Grand Emio 3F 麻婆豆腐が人気の「北京飯店」
　　会費 2,000 円程度を予定

◎所沢から移動　　所沢駅から西武新宿線で狭山市駅へ
◎花火見物　狭山市駅から河川敷まで縁日・出店を覗きながら、ぶらぶらと散歩
　　19：30～20：00 までの 30 分間花火見物
　　現地解散

＊お申し込みは、メールで、お名前を記載いただきお願い申し上げます。
　お申し込みはこちらへ ⇒　Nishitokyo.mitakai@gmail.com

＊狭山市駅から電車で帰りますが、例年、会場から電車に乗るまで 1 時間程度かかる見込みの情報がありますので、駅から七夕を見ながら、縁日・出店を覗きつつ河川敷まで行き、花火が始まりまりましたら解散します。花火のクライマックスまで見る方はそのまま最後まで河川敷で見物、一方、帰りの混雑を避ける方は、花火を見上げながら狭山市駅に向かい早めに駅に到着、など各自の好みで花火見物をお楽しみください。

西東京三田会グルメ会担当　小笠原（S57 経）

「ブルーベリー摘みの会」を開催します(7/30)

毎年開催しております「ブルーベリー摘みの会」の開催が決定いたしました。
今年は、7 月 30 日（日）です。場所は毎年お世話しなっている東久留米三田会員野崎様の農園です。集合時間等の詳細は決まり次第みなさんにお知らせいたします。
小さなお子様からご年配の方までみなさんに楽しんでいただけます。
ご家族のみなさんでの参加をお待ちしています。
写真は去年の様子です。

第 18 回(令和 5 年)西東京三田会写真・作品展要項

主催：　西東京三田会　写真・作品倶楽部
協力：　小平三田会、杉並三田会、西東京稲門会

写真・作品展を以下のように開催致します。コロナ禍も漸く終息に向かっています。今年も会員やそのご家族（お子さん・お孫さん含め）の皆様が日頃の拠り所にされている創作活動（写真、水彩・油彩画、日本画、版画、毛筆、出版等々）の成果を共有したいと思います。額縁等を利用したパネル展示だけでなく、掛け軸や立体物の展示も可能になりました。希望者には写真用の額縁（A4、四つ切ワイド）をご用意致します。8 月の三田会通信で、申込書を添付してご案内致しますので、奮ってご参加下さい。

開催期間：令和 5 年 10 月 16 日～22 日　10：00 ～17：00
（16 日は 10：00 から設営と出品者説明会を行います。
22 日は 16：00 に展示終了で、その後撤収作業を行います）
場所：　柳沢公民館　1 階ロビー（下図）　パネル 7 台 12 面使用（壁面利用可）
担当者：　高橋信一
会場の設営・運営（受付）は参加者全員の分担協力をお願いします。
作品募集：三田会通信で別途配布します申込書にご記入の上、メール・FAX、或いは郵送で作品の内容（点数、本体サイズ、題名、種別（写真、絵画等、額の有無）を担当者にお知らせください。また、申込時に作品の画像をいただきたいと存じます。ファイルかプリントを送ってください。昨年から作品紹介文（100 字程度）をいただいて掲示しています。好評ですので、今年もよろしくお願いします。
額縁・フレームをお持ちでない方は、その旨申出ください。三田会持ちの写真用額縁（A4、四つ切ワイド）をご用意します。尚、作品を持参出来ない方はご相談下さい。
申込書の脚注をよくお読みください。不明な点がありましたら、遠慮なく下記に連絡ください。
申込期間：令和 5 年 8 月 20 日～10 月 10 日
連絡先：　高橋信一　電話／FAX 042-467-0277　shin123@jcom.home.ne.jp
〒188-0012　西東京市南町 5-17-13

昨年の写真・作品展

西東京三田会　会員インタビュー

第２回　ボーイスカウト西東京第１団の元デンリーダー、現賛助会員の町田　栄一郎さん
ボーイスカウト西東京第２団　団委員　田中　正夫さん

今回は、町田　栄一郎（S62　経）さんと田中　正夫（S51　政）さんに西東京市でのボーイスカウトの活動についてのお話をお聞きしました。
町田さんは当会の監事、田中さんは理事として活躍して頂いておられます。以前から田中さんが西東京市のボーイスカウト活動に参加されていることは存じておりましたが、田中さんとお話をしている中で町田さんも団は違えどボーイスカウト活動のお手伝いをされていることが分かりました。
そこで今回はこの会員インタビューで町田さんと田中さんのお二方にスポットを当て、知っているようでいて知らない西東京市のボーイスカウト活動のお話をお聞きすることとしました。

◎ 5 月 14 日町田さんが代表を務められる三幸自動車株式会社の向台町にある本社にお伺いしました。

編集委員
まずボーイスカウト西東京第１団についてお話を聞かせて下さい。

町田さん
ボーイスカウト西東京第１団（以下西東京第１団）は昭和 25 年（1950 年）に北多摩第１団として現在の田無周辺を地盤に発足し、令和２年（2020 年）に 70 周年を迎えました。現在団の代表は田無町にある総持寺（真言宗智山派　田無山）のご住職である小峰　立丸さんが育成会長として務められています。団舎も総持寺にあり、団の活動もここを中心として行っています。団員は現在 80 名近く登録されています。団は３つの隊で構成されていて、１つ目はビーバー隊（小学校１年生～2 年生）、２つ目はカブ隊（小学校３年生～5 年生）、３つ目はボーイ隊（小学校６年生以上）となっています。

カブ隊（上進式）

カブ隊（上進式）

編集委員

西東京第１団は 70 年以上の活動実績があるとのことでしたが、その中での変化を端的に言っていただけるとしたらどのようなことでしょうか。

町田さん

昭和、平成、令和と時代が変わっていくに従って、一言でいうなら子供の数が少なくなってきたということでしょうか。私が子供のころは、兄弟がいるのが普通でしたし、学校から帰っても家に親がいるのが当たり前でした。今は兄弟がいない一人っ子が多く、親も共働きで学校から帰っても誰もいないという時代になっています。そのため集団行動が出来ない、また叱る人がいない状況になっているのではないでしょうか。ボーイスカウト活動のことから言いますと、親がボランティアとして参加し、その活動を支えていくということが基本となっていますが、親の負担感（自由時間が減ってきている、疲れている、サービス業勤務、共働き夫婦が増えて、活動日の日曜日自体も出勤日で参加しづらい等）が増えて、それが敬遠され隊員が上進しないで、サッカーに行ってしまったという事態も起きています。

注：上進とはビーバーからカブ、カブからボーイと上がること

編集委員

町田さんご自身もお子さんをボーイスカウトに入れられ、デンリーダーとしてビーバー隊、カブ隊に参加され、お子さんがボーイ隊に上進するときに賛助会員になられたとのことですが、良かったことは何でしょうか。

注：デンリーダーとは隊の運営のお世話をしていただくボランティアメンバーのこと

町田さん

集団行動が分かり、他人に叱られるという貴重な体験を子供が積んだことだと思います。訓練では、雪中や草生い茂る森林内の道なき道を行ったり、モールス信号の体験、リンツ作り、キャンプファイアーなどの共同作業、また社会奉仕活動などを行ったことは良い体験になったと考えています。

注：リンツとは、既製のテントではなく、ブルーシート, 竹材, ロープや自然のものを用いて作るテントを言います。

ビーバー隊（社会体験）

カブ隊（社会体験）

編集委員

私は子供のころボーイスカウトにいましたが、その活動理念として「誓い」と「掟（おきて）」があります。今ではともすると「型苦しい」とか、「時代遅れ」と評されない言葉ですが、どう感じられますか。また当時口癖になっていた言葉「常に備えよ」「まなこ開きて見極めよ、耳を澄まして聞きただせ」が今も時々口に出ますが、今でもこうした言葉を指導しておられるのですか。

町田さん

「誓い」と「掟」は重要だと思います。ただ、最近の新しいパパさん、ママさんにとっては少し感覚的に古く感じますので、「目標」と「規則（ルール）」と解説した方が良いのかもしれません。また「常に備えよ」や「5分前集合」はよく言われていました。ボーイスカウトでは「生きる力」を醸成します。この仲間と生き、万が一の時に備えるのが「常に備えよ」だと思います。例えば、サバイバル缶飯（通称サバ缶）というものがあります。米、水、缶と牛乳パックがあればご飯が炊けるのです。このように食料を確保できる人がリーダーとなりえます。

編集委員

長時間お話お聞かせいただきありがとうございます。

最後に今回は西東京三田会のニュースレターに載せるインタビューとしてお話をいただきましたが、西東京三田会の会員の方々に何かメッセージがあればお願い致します。

町田さん

息子さんやお孫さんにボーイスカウト活動に参加することを勧めていただきたいと思いますし、募集用の体験会日程の告知のお手伝いを頂けると大変助かります。また社会体験ができる見学先を是非ともご紹介してください。又、育成会への金銭的ご支援もありがたいと思います。

※西東京ボーイスカウト第１団問い合わせ先

メール：nishitokyo.scout@gmail.com

ホームページ：https://nishitokyo-scout.org/

電話：080-8886-8778

◎6月3日　東伏見小学校に隣接するボーイスカウト西東京第２団（以下第２団）の団舎にお伺いして田中さんにお話をお聞きしました。

（団舎での田中さん）

編集委員

事前にお送りしました質問にボーイスカウトの理念として「誓い」や「掟」といった言葉がありますが、ここ第２団ではどのように使われているのでしょうか。

田中さん

ボーイスカウト活動は英国の発祥で、「誓い」や「掟」といった言葉は英語をそのまま日本語に訳したものです。ですから日本では「3つのちかい、8つのおきて」として定め、特に誓いの第一に神（仏）と国に誠を尽くしおきてを守りますとしています。

編集委員

昭和、平成、令和という時代の変化の中で、人々の状況が大きく変わってきていますが、ここ第２団では現在どのようになっているのでしょうか。

田中さん

第２団は発足以来、特定のパトロンはおらず、運営に係る団委員・隊指導者とも全員が手弁当のボランティアです。したがって親御さんにも率先して活動に関わってもらえないとうまくいきません。最近は保護者も忙しいのかお金を出して後はお任せという方も散見され、協力をお願いしています。また子供たちも限られた時間の中で塾やスポーツを掛け持ちしているので、よりよいコンテンツを提供しないと参加率が落ちてしまいます。少子化の進行もあり、新規入団の獲得・途中退団の防止が課題です。

編集委員

普段の活動はどこで行っているのですか。

田中さん

ここの近くにある東伏見公園ですが、以前は千駄山広場といって戦後の都営住宅の跡地でした。保谷市（2001年田無市と合併し西東京市に）が管理しており、第２団も草刈りなどで広場の維持管理に協力するなどよい関係を築き、随分自由に使わせてもらいました。現在は都の管理になっていますので、規則に則り一泊キャンプやスポーツ大会等、メインの活動フィールドにしています。

編集委員

第２団の人数が多かった時期はいつぐらいなのでしょうか。

田中さん

第２団は昭和36年（1961年）に北多摩７団として正式に日本ボーイスカウト連盟に加盟し発足しました。1995年から2009年までは100名以上のスカウトを擁し、連盟のＳランクを15年続けました。現在も65名以上のスカウトを擁し、Ａランクを連続達成しています。

（発団６０周年記念式典 2021年10月
こもれびホール）

編集委員

女子の隊員がいるかいないかは第１団と大きな違いと思いますが、第２団にいる女子をどのように見ておられますか。

田中さん

ボーイスカウトは一般的には男子のみで、女子はガールスカウトという組織があります。1995年から連盟が女子の入団を認め、第２団は2001年から女子入隊を開始しました。現在は70名中20名が女子です。ここの女子を見ていると小学生から中学生にかけては女子の方がしっかりとしていると思います。男子だから女子だからという区別なく仲良く活動を行っています。今の社会では男女の区別なく働くことが求められていますし、それを幼い時からスカウト活動を一緒に行っているということは良いことと考えています。

編集委員

第２団としての活動をもう少し詳しく教えてください。

田中さん

その前に隊としての活動と団としての活動があることをご理解ください。一般に認識されているのは隊としての活動で、年齢によって「ビーバー隊」「カブ隊」「ボーイ隊」「ベンチャー隊」「ローバー隊」の５隊になります。活動の大きなものは夏キャンプがメインとなります。その他にもハイキングや登山、夜に行うナイトハイクなど盛りだくさん。またボーイスカウトならではの「奉仕活動」も力を入れています。赤い羽根募金では市内４駅の駅頭で募金活動を続けています。

団としての活動は、５年に一度の全体キャンプ、西東京市民まつりに参加、新潟方面でのスキーキャンプなどがあります。これら全体を統括するのが団委員会であり、私はそこで団委員を務めていますと、恰好をつけて言ったものの実際は裏方ですね、何といっても「スカウトがメイン」です。私も息子が加入した関係で運営にかかわるようになり、現在は孫がカブ隊に入っています。まさか30年にも渡って係るとは思ってもみませんでした。（そろそろリタイアしたい・・・）

（西東京市民まつり　アスレチックコーナーを運営）（新潟でのスキーキャンプ）

編集委員

最後にこれは町田さんにもお聞きしたのですが、これは西東京三田会のニュースレターに掲載するインタビューとしてお聞きしていますので、何か西東京三田会の会員の方々に対してメッセージがあればお聞かせください。

田中さん

まず皆様のお孫さんやお子さんにボーイスカウトを紹介してください。活動内容はHPを見て頂ければ分かります。体験入隊はいつでもできます。また団の育成会がありますので、そこに入会して資金的な援助を頂けるとありがたいです。宜しくお願いします。

※ボーイスカウト西東京第2団　問い合わせ先

小林団委員長　メール：k-koba@rr.iij4u.or.jp　　電話：090-3069-8554

ホームページ問い合わせ：https://www.bs-nishitokyo2.com/join/04/

お二方のお話をお聞きして

それぞれの団の歴史は、西東京第1団が70年以上、西東京第2団は60年以上と古く、地元に根差した活動を行っておられることがよく分かりました。

またボーイスカウト活動参加されている親御さんも真剣で、子供をただ預けるということではなく一緒に活動をして、団を運営しているお話を聞いて改めて頭の下がる思いでした。

（編集委員　高橋、行田、大内、森）

スコットランドの至福

-スコットランドゴルフ紀行-　　宝井繁夫（S52　商）

私の長年の夢の一つは英国スコットランドのリンクスコースでゴルフをすることでした。もともとは老若男女（一部の）がこれ程夢中になるこのゲームがどんな土地で生まれ、どんな風土、どんな人達によって育てられたのか、ゴルフ誕生の歴史に触れてみたい思いがありました。（スコットランドでは街や村の数だけゴルフ場があるそうです）

そして TV 中継などで見る全英オープンゴルフの荒れ地のようなコース、 強風、絶壁のバンカーなど、ゴルフの原形に一生に一度は挑戦する夢が膨らみました。ゴルフを通じて地元の方々と交流ができたら一生の記念になると思います。

またスコットランドはシングルモルト・ウィスキーの故郷でもあります。歴史あるウィスキー蒸留所が 160 個所も点在しています。スコットランドの風土が生んだ個性ある本場のスコッチウィスキーを現地で味わうのも楽しみです。

期待と不安を胸に、冒険の旅が始まります。

セントアンドリュース・リンクス

2023 年 5 月 15 日羽田空港を出発しロンドンヒースロー空港を経由してスコットランドの首都エディンバラを目指しました。乗り換えを含めて 20 時間弱の長旅でした。あらかじめ予約してあったレンタカーを受け取り先ずはゴルフの聖地セントアンドリュースに向かいました。初めて訪れたセントアンドリュース、荒涼とした自然の中に広がるゴルフコース、歴史を刻みこんだ街並み、そしてそこに世界中から集うゴルファー達の笑顔、高揚感、緊張感に接し、本当に世界最高峰のゴルフコースに立っていると実感しました。この時の感動は今も鮮やかによみがえります。

カーヌスティ・ゴルフリンクス

翌日は更に北方のカーヌスティに向け移動します。緯度で言うと樺太より北に位置しています。途中の移動はレンタカー、セントアンドリュースから１時間程で到着します。英国は日本と同じ左側通行でもあり、ドライバーのマナーも良いので田舎道を快適にドライブできます。交差点はロータリーになっていて信号はほとんどありません。

カーヌスティ・ゴルフリンクスは全英オープンも開催される名門コースです。海辺に広がる広大なコースですが、コース内縦横に小川が流れ、深いバンカーと相まってプレイヤーは緊張を強いられます。ハリエニシダが随所に群生し黄色い花が咲き誇っていました。

余談ですが、日本から送ったゴルフバッグが一時行方不明となり貸クラブ、貸シューズでプレイしたのも良い思い出です。

スコットランドの人たちの人懐っこさ、暖かさはとても印象的でした。すれ違うと必ず笑顔で挨拶してくれます。コースで出会った颯爽とした老紳士に「今日はいかがでした？」と声をかけるとニコニコしながら一言「Bad day…」、この辺りは日本も一緒ですね。

ダンバー・ゴルフ・クラブ

休養を兼ねた観光を挟みエディンバラの西方の小さな漁師町ダンバーへ移動しました。ダンバーゴルフクラブも 1856 年に開設された歴史あるゴルフクラブです。ここも典型的なリンクス（海辺の荒地）コースで広大な景色が広がっています。

スコットランドでよく見る古い石の壁がホールを仕切っていて歴史を感じますが、変わりやすい天気や海からの強い風がプレイヤーを悩ませます。

地元のメンバーの方は皆さん気さくで、親戚のおじさんのようです。日本から来たというとたちまち打ち解けてゴルフ談義で盛り上がります。クラブハウスはコンパクトですがアットホームな暖かい雰囲気です。会員用の部屋にはビリヤード台もあり正にカントリークラブの趣きがあります。昼に食べた本場のクラブハウスサンドウィッチも素朴で美味しかったです。

エディンバラ市街

スコットランドの首都。丘陵地帯に広がる落ち着いた街並みはユネスコ世界遺産に登録されています。アダムスミスゆかりの土地、エディンバラ城を中心にエディンバラ大学、アンティークショップ、ウィスキー・ミュージアムなどの名所に世界中から観光客が訪れます。

ウィスキーミュージアムでは 4,000 本のボトルの展示が圧巻、シングルモルトウィスキーの解説を聞きながらの試飲もできます。

ところで、エディンバラ市街には専用の公共駐車場がありません。そのため路上駐車用のパーキングチケットが必要ですが、これがクレジットカード払いでのみで慣れないとなかなか駐車ができません。ちなみにバグパイプなど路上のパフォーマンスへの投げ銭もカード払いです。

今回の旅では結局 1 ポンドも現金を使わず全てクレジットカード払いでした。

旅のメモ、出会った人たち

今回の旅はゴルフ仲間の S さんと 2 人旅でした。”もともと 3 年前に計画した際は 4 人で行く予定でしたが、新型コロナで延期となり、1 人減り、2 人減り結局 2 人での旅となりました。

“暇なシニア”の特権ですべての旅程を自分たちで計画し、インターネットで手配・予約しました。但し、実際に現地に行くとキャディーバッグのロストバゲージを始めとして移動、宿泊、IT 対応など予想外の事件への対応が必要となりました。英語力の不足も相まって、シニアにとっては”毎日が冒険“の日々、でした。ロストバゲージ等トラブルもありましたが何とか乗り切って、今となっては良い思い出になりました。

レンタカーは運転に慣れるまでは緊張しましたが、自由気ままに移動でき、また旅費も格安で収まりました。

ポータブル Wifi も必須装備、これが無いとグーグルマップ、自動翻訳等も使えずかなり不便です。ちなみにグーグルマップは日本語で表示され大変便利でした。

ホテルの受付犬

スタート小屋のおじさん

カーヌスティホテルのスタッフ

オールドコースの
誘導員

スイス人ゴルファー
ご夫婦

地元のカメラマンさん

帰りの飛行機で
アメリカ人のドクター

旅を終えて

5 月 25 日、8 泊 10 日の旅を終えて無事帰国することができました。振り返ると濃密な体験に満ちた一生忘れられない旅となりました。本当に思い切って行って良かった、と「S さん」ともよく話しています。

土産に買ってきたアイラ島のウィスキーを味わっているとリンクスの荒涼とした風景、海風の香りがよみがえってきます・・・これも至福ですね。

最後に球聖ボビー・ジョーンズの言葉を引用して旅行記を終わります。

『人生の最後に、いくらの財産を得たかではない。
何人のゴルフ仲間を得たかである。』
ボビー・ジョーンズ

スコットランドの食事

編集委員より
ニュースレターの紙面の都合で掲載できる写真の枚数が限られてしまいました。
完全版は、西東京三田会ホームページに掲載しています。
掲載した写真のほかにも素敵な写真がたくさんありますので、ぜひとも下記リンクからご覧ください。

「スコットランドの至福」完全版はこちらへ

⇩

西東京三田会ホームページ
http://www.nishitokyo-mitakai.net/sincyaku.html

編集後記

今号の企画である「西東京三田会　会員インタビュー」で市内のボーイスカウト活動を取り上げておりますが、私は6月上旬のボーイスカウト西東京第2団・田中正夫さんのインタビューに同席させて頂きました。

その時私が最も関心を持ったのは「世界スカウトジャンボリー」という4年に一度程のペースで開催される大イベントです。2019年は米国開催で「160以上の国と地域から41,559人が参加」と記録されており、私には「まさに夢のような大企画」に思えてならず、このような企画の今後の発展を影ながら応援させて頂きたいと感じました。

現会員数は113名と減少傾向にあるとのことですが、会員数の増加を期待せずにはおれません。

本号の新任理事の紹介に登場頂きました丑山佐枝子さん（H18政メ院）に、次回NL30より編集委員に参画して頂くこととなりました。若手会員の目線、そして女性会員の目線から新鮮な誌面作りを担て頂こうと考えており、編集委員にとって非常に強力な戦力になって下さると思います。どうか会員の皆様、今後とも西東京三田会ニュースレターにご期待下さい。

編集委員

井上京子、大内俊、高橋幸三、森茂樹、横田均、行田健二

令和5年7月1日